

## 青山神明遺跡 (本発掘調査B)

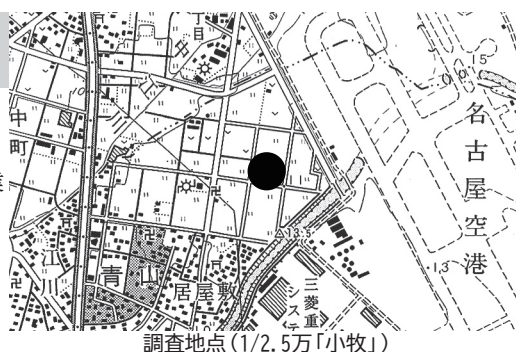
**所在地** 西春日井郡豊山町大字青山字神明地内  
(北緯35度15分35秒 東経136度54分49秒)  
中小河川改良事業・総合治水対策特定河川事業  
(一級河川大山川)

**調査理由**

**調査期間** 令和7年5月～9月

**調査面積** 5,041m<sup>2</sup>

**担当者** 永井宏幸・早野浩二・小柳篤史



**調査の経過** 調査は、愛知県建設局河川課による中小河川改良事業・総合治水対策特定河川事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受け、令和7年5月から9月まで実施した。調査区は23B区の西側、23C区、24A区の北側、24B区の北西側に位置する。調査面積は5,041m<sup>2</sup>である。

**立地と環境** 本遺跡は南東側の大山川と北西側の中江川という二本の河川に挟まれた低位段丘上に位置する。遺跡付近の標高は約10mである。

**調査の概要** 調査の結果、縄文時代草創期から中世にかけての遺物、遺構が検出された。中でも古墳時代前期から中期、古代末から中世の遺構、遺物が多く確認された。

**縄文時代草創期** 縄文時代草創期の遺物として、有舌尖頭器が出土した。石材には下呂石が用いられている。同時期の遺物は他に確認できなかった。

**古墳時代** 古墳時代の遺構は溝560SDが中心である。溝560SDからは土師器の甕、高杯、壺が多く出土した。時期は古墳時代前期後半から中期前半までで、やや幅がある。560SD周囲には628SXなど同時期の土師器を多く含む不定形の土坑がある。これらは竪穴建物(の掘方)と想定できる。

**古代** 古代の遺構としては、掘方が方形を呈する井戸800SEなどがある。井戸800SEの底面には、須恵器把手付鉢が正位で据えられていた。井戸の時期は共伴した須恵器から、8世紀後半と考えられる。井戸800SEの西側には、掘立柱建物730SBが位置する。掘立柱建物730SBは桁行6間以上、梁行2間で、井戸800SEの掘方と方位が近似することから、井戸と建物は同時期と考えられる。

**古代末から中世** 古代末から中世の遺構として、多数の溝、土坑、井戸が確認できた。特に井戸は計17基を確認した。平安時代末の井戸310SEでは、灰釉陶器輪花碗、玉縁口縁碗などが出土した。また、井戸10046SEでは、尾張型山茶碗、土師器伊勢型鍋などの遺物が出土した。鎌倉時代の井戸102SEは、尾張型山茶碗が多数出土した。室町時代の井戸10060SEは、墨書がある東濃型山茶碗、土師器皿などが出土した。

**近代** 調査区中央に南北に延びる2条の溝は、明治時代から存在していた道路と、その両脇にある側溝である。

**まとめ** 以上、今年度調査区の遺構、遺物としては、縄文時代草創期が最も古く、集落としては古墳時代前期から中期に形成され、その後、古代から中世にかけて継続したと考えられる。

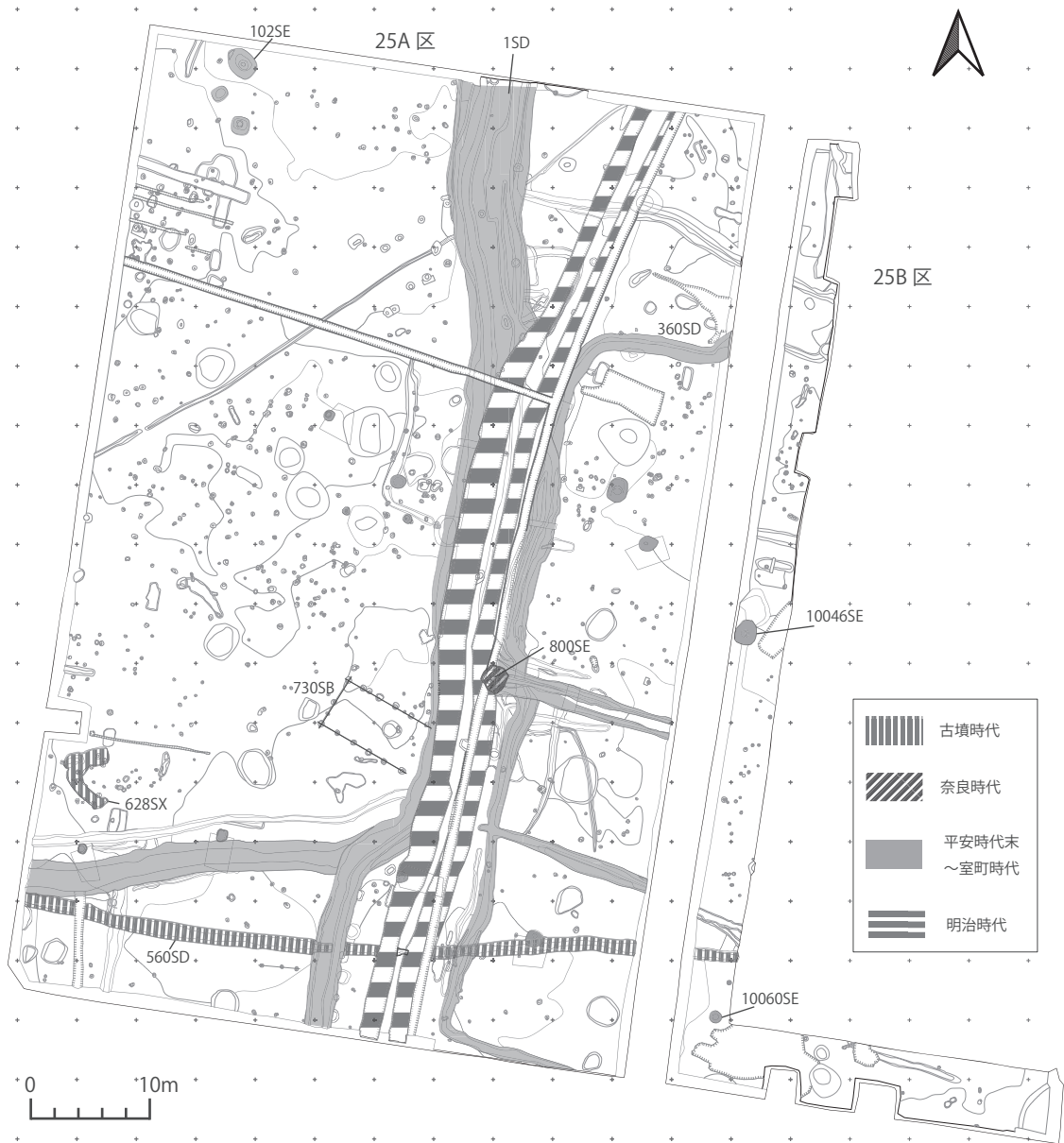
(小柳篤史)



25A区 560SDの遺物出土状況



25A区800SE 須恵器把手付き甕の出土状況



青山神明遺跡25A区, 25B区 主要遺構図 (S=1/600)